

和's YAMATO

わすやまと

特集 尾瀬 夏の思い出
 尾瀬の自然を守ろう
 影で支えるボランティア活動
 愛と義に生きた戦国の知将 直江兼統(その二)
 エネルギーソリューション&蓄熱フェア'09 (東京ビッグサイト)
 ENE-WAY 2009 エネルギーで解決見本市 (ポートメッセなごや)
 尾張名古屋は城で保つ(もつ)
 金鯱輝く名古屋城(愛知県名古屋市)
 ●西那須野・西大和地区再開発事業
 群馬県 赤城神社の湧水

展示会の
 話 題
 訪ねてみたい
 名所・旧跡
 お客様
 紹介
 名水探訪



(上)赤城山の麓、清流と緑の風景。遠く山頂が見られる。(下)赤城神社から山頂方向へ向かうと、不動大滝があり、滝から流れ出る清流が赤城山の湧水を育む

赤城山からの涼みの水が勢いよく流れ出る

名水探訪

第二回

赤城神社の湧水

群馬県前橋市三夜町

Text/Naoya Kinoshita
 Photo/Norio Ishimori

その尊厳と恩恵とは親しみをおこめて「み山」と呼ばれ、上毛野君の言から尊ばれるとともに、信仰を集めている。分社は群馬県下のみで七十八社、その他を併せると三百余社に及び。

赤城山のふもとにある赤城神社は、主祭神に赤城大明神(赤城大神)をお祀りしている。清らかな頂から山上を流れてくる神水は、真夏の日照りの時でも、田畑に潤いを与えてくれた。そのため、赤城山は神様の山だとする山岳信仰が広がった。

赤城山の黒檜岳(くろひだけ)は、「雨をもたらず黒い雲霧の立ち込める山」を意味する「黒檜の嶺(くろひだけ)のねづ」と呼ばれていた。

いにしへの人々が恵みの雨に感謝しつゝ仰ぎ見た赤城山。その頂の沼から流れるのが、「赤城の湧水」である。

赤城神社は東國開拓の神々が祀(まつ)られている古来からの名社である。東國経営にあたった上毛野君(かみつけぬのきみ)の創祀(そつじ)であり、以来、國司、武将たちが篤く崇敬していた。

鎮座地は赤城山中央、荒山の下方山麓の豊勝の地にあり、荒山から下ってくる尾根の端には、神跡「ひつ石」がある。これは古代祭祀の遺跡で、そこからは関東平野が一望でき、太平洋にそそぐ利根川や、秩父山脈と重なるように聳峰富士を望むことができる。

山頂の小沼から出る粕川(かすか)を始める粕川は麓の村落を潤し、



赤城神社の鳥居。沼の神霊を祀る自然信仰に端を発している

株式会社ヤマトPR誌
 和's YAMATO 2009 Autumn/第2号 2009年10月 発行(秋号)(季刊・年4回発行)
 発行/株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118
 TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL www.yamato-se.co.jp



支 店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎
 営 業 所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野
 関連会社/株式会社埼玉ヤマト 大和メンテナンス株式会社 ヤマトイー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社 株式会社ヤマト・イズミテクノス

「和's YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の和、Water & Airの頭文字を合わせてWA、SIはスタート、ヤマトが発信するメッセージです。



残されたつぼみの数から、見頃の期間がどれ位残されているか推測することができるそうです



清々しい空気が尾瀬を覆っています



尾瀬湿原(中田代)のニッコウキスゲ。梅雨明けの7月中旬頃に見頃を迎え、1つの株に6~7個の花をつけ、1つずつ花を咲かせます。1つの花の命は1日だけで、最盛期は約1週間で終わります。

ニッコウキスゲはユリ科の高山植物で、尾瀬ヶ原では山ノ鼻ビジターセンターから1時間30分ほど歩いた地点の、「中田代」付近で大群落が見られます。

早朝に山ノ鼻ビジターセンターを出発したときは、名残の朝霞(もや)が燧ヶ岳の麓を覆っていました。朝の張りつめた冷たい空気が、徐々に爽やかな夏の空気へと変わる中、湿原が清々しい風景を見せてくれます。

尾瀬ヶ原の平均標高は1400メートル、至仏山や燧ヶ岳など、2000メートル前後の山々に囲まれ、東西約8キロ、南北約2キロの広大な盆地状の湿原です。

尾瀬ヶ原には、2000を超える大小の池状の水辺、池塘(ちとう)があり、そこには、ヒツジグサが白い花を浮かばせています。

ヒツジグサはスイレン科で「未草」と書き、昔の時刻の表わし方である「未の刻(14時)」頃に花が咲くところから、この名前がついたということですが、実際には午前11時頃から咲き始め、16時頃しぼんでしまいます。

尾瀬では現在、生育が確認されているだけでも900種類を超える高山植物が根付いています。植物の種類や希少種の多さだけではなく、動植物やそれらをとりにくく地形的、気候的環境も含む生態系そのものに、学術的な高い価値があります。そのため、尾瀬国立公園は訪れる人にとって、手つかずの湿原を体験できる貴重な場所となっています。



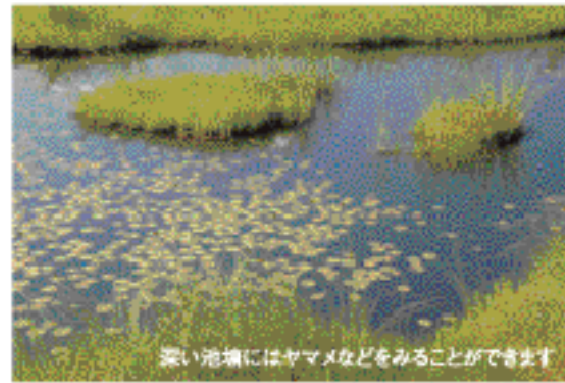
よく見ると二輪同時に咲いているものが多く、それがわかります



朝霞が燧ヶ岳の麓にたなびいていて、日常と異なる光景です



湿原の窪地に水がたまった所を「池塘(ちとう)」といいます



深い池塘にはヤマメなどをみることもできます



夏が終わると、10月頃には鮮やかに染められたクサモミジが楽しめます

[尾瀬周辺 登山口 ロードマップ]



尾瀬は「日光国立公園」の一部でしたが、2年前の平成19年に、「尾瀬国立公園」として誕生しました。

面積は3万7000ヘクタール、群馬、新潟、栃木、福島の4県にまたがり、本州最大の湿原である尾瀬ヶ原をはじめ、至仏(しぶつ)山や燧ヶ岳(ひうちがたけ)など2000メートル級の山々に囲まれています。その雄大な景色は、訪れる人々に四季を通じ自然の奥深い感動を与えてくれます。高山植物の宝庫でもある尾瀬に、夏のある一日、ニッコウキスゲの群落を求めて入山してみました。

尾瀬 夏の思い出



上杉氏は、越後から会津に移封した（会津 鶴ヶ城の天守閣）

愛と義に生きた戦国の智将・直江兼統（その二） 上杉家・直江兼統 時代に翻弄され東北へ

上杉家は1598年（慶長3年）、豊臣秀吉より越後から会津への国替えを命じられ、これまでの91万石から120万石に増封された。秀吉は上杉家を北の守りの主力とし、兼統の主君・貞勝を豊臣家の五大老の一人に抜擢した。兼統も米沢6万石を領有することになったが、そのわずか半年後に秀吉が死去、それに乘じて徳川家康は天下取りをうかがい、加賀（石川県金沢市）の前田家に謀反の疑いをかけ屈辱させ、次に東北の要・会津を領有する上杉家にその矛先を向けた。景勝は、領国になったばかりの会津で、神指城（こうさしじょう）という巨城の建設に取り掛かっていたが、これを見とがめた家康が、築城の理由を乱（ただ）す詰問状を景勝に送りつける。天下を狙う家康にとって、北の大勢力・上杉家は、自分の野望を脅かしかねない目障りな存在であった。詰問状を送り、上洛して築城の申し開きをするよう求める家康に対し、兼統は堂々と反論の書状をしたためた。これが世に名高い「直江状」である。

動乱の時代でも正論を主張

直江状で兼統は、謀反の疑いは事実無根である、道路を整備したり軍備を充実するのは領国内のことであるから口出しされる筋合ではない、など正論を押し通している。そこには家康の疑念に対し主君を立て正

面から反論する、兼統の「義」の精神が発露されている。たとえ天下を握ろうとする権力者といえども、兼統にはみじんも臆するところなかった。

書状を見た家康は激怒し、上杉征伐のため京都から会津に向け東上する。しかし途中、家康の軍が小山（栃木県小山市）まで来た時に、石田三成が挙兵したとの報が入った。諸説によれば、これは家康が兼統の盟友・石田三成に挙兵させるために企てた誘導作戦だったとも言われている。また、上杉征伐に乗り出した家康を制するために光成が挙兵したとの説もある。

家康は光成挙兵の報を受けるや、全軍を西に向けた。そして、天下分け目の関ヶ原の戦いが始まる。この時家康の迎撃態勢を整えていた兼統は徳川軍追撃を主張したが、景勝は「敵の背後を襲うのは上杉の『義』の軍法にはない」とこれを退けたといわれる。

家康が関ヶ原に向かうと、家康方の出羽（現在の秋田県、山形県）・山形城主最上義光が上杉領に攻め込んできた。兼統は最上勢の城を撃破しながら山形に迫るが、途中、関ヶ原の戦いで西軍が敗退したとの報が届く。そこで兼統は景勝の命令を受け、すぐさま米沢への撤退を開始した。この撤退戦で兼統は見事な采配をふるい、敵方の家康がその戦いぶりを称賛したといわれる。

直江兼統（一五六〇～一六一九）越後の名將として名高い上杉謙信の養子となった上杉景勝に仕える。景勝と共に謙信より「愛民精神」を学び、利を遠ざけ義を重んずることで天下平定を求めた。太閤豊臣秀吉からも一目置かれる名参謀であったが、上杉景勝を生誕唯一の主君とし、領民への仁愛を基本として藩の運営に尽力した。二〇〇九年NHK大河ドラマ「天地人」でとり上げられ、その生涯に注目が集まった。



雪に覆われた尾瀬ヶ原



野村政親さん

尾瀬の自然を守ろう



陰で支えるボランティア活動

尾瀬には年間数十万人の人々が美しい自然を求めて訪れます。特に春のミズバショウ、夏のニッコウキスゲ、秋の草モミジの見頃時期に、入山者が集中しています。

尾瀬の公衆トイレや山小屋には合併処理浄化槽が設置され、環境への影響が最小限になるよう配慮されています。また、利用者にトイレの維持費の一部負担を促しているために、手洗い場に募金箱のような箱を設置し、チップを呼び掛けています。

このような取り組みで、豊かな生態系を有する尾瀬の自然が、人間から出る有機物の影響で損なわれるのを防いでいます。

当社冷熱部の野村政親さん（六四歳）は、尾瀬の自然保護・清掃ボランティアを始めて十年になります。

尾瀬が雪に覆われた今年3月には、山ノ鼻ビジターセンター等の除雪と各施設の点検に参加しました。積雪は例年より少ないとはいえないものの2メートルを超え、行きはヘリコプターで入り、帰りはスキーを使い5時間かけて下山したということです。

野村さんの尾瀬の清掃ボランティア活動に対し平成19年に群馬県知事から感謝状が贈呈されました。

尾瀬の自然を愛する野村さんは、尾瀬への入山者を心地よく安全に迎える地道な活動を、現在も続けています。



山小屋の脇に設置された合併処理浄化槽



ヘリコプターで入山



一面銀世界の冬景色



利用者にチップの形で負担を求める



玄関前を除雪する野村さん(中央)

年表でたどる
兼統の人生

- 1555 ● 弘治1年 上杉景勝が誕生。
父は坂戸城主の長尾政景。
母は上杉謙信の姉の仙桃(洞)院。
- 1560 ● 永禄3年 直江兼統が誕生。父は長尾政景の家臣
樋口兼右衛門(兼豊)。
- 1564 ● 永禄7年 第5回川中島の合戦。政景が死去。
のちに景勝が謙信の養子になる。
- 1570 ● 元亀1年 謙信は小田原の北条氏康の子を養子に迎え、
景虎と命名。
- 1578 ● 天正6年 謙信が春日山城で死去。景勝と景虎が争う御館の乱が勃発。
- 1579 ● 天正7年 景虎が駿ヶ尾城で自刃。
景勝が上杉家の後継者となる。
- 1581 ● 天正9年 兼統がお船と結婚し、
直江を継いで与坂城主となる。
- 1582 ● 天正10年 信長の軍勢が越後に向けて侵攻し、
魚津城などが落城。本能寺の夜で信長が死去。
- 1586 ● 天正14年 景勝・兼統主従が上洛し、豊臣秀吉に臣従する。
- 1588 ● 天正16年 兼統が豊臣秀吉から豊臣性を許される。
- 1589 ● 天正17年 秀吉の命を受けて上杉家が佐渡を平定。
- 1596 ● 慶長3年 景勝、会津120万石へ移封。
秀吉の特命もあって兼統は米沢の城主となる。
- 1600 ● 慶長5年 徳川家康の詰問状に対し、兼統が「直江状」で応じる。
- 1601 ● 慶長6年 景勝、米沢30万石への移封を命ぜられる。
- 1602 ● 慶長7年 兼統、この頃から10年近い歳月をかけて
米沢の城下町づくりに着手する。
- 1603 ● 慶長8年 家康、江戸幕府を開く。
- 1604 ● 慶長9年 兼統、長女・お松の婿として家康の重臣・本多正信の
次男・政重を養子に迎える。
- 1614 ● 慶長19年 大坂冬の陣に、上杉軍も参陣する。
- 1615 ● 慶長20年 大坂夏の陣。秀頼自刃して豊臣家は滅亡。
- 1619 ● 元和5年 兼統、江戸で病没。
- 1623 ● 元和9年 景勝、死去。

上杉家は越後から、会津・米沢へ



Text/Naoya Kinoshita Photo/Katsuka Suzuki

諸説あり、謎めく「直江状」

いわゆる「直江状」は、前述したように、上洛(じょうらく)を求める徳川家康に対して、直江兼統が1600(慶長5)年4月に出したとされる書状のことである。直江の書いた書状ということから「直江状」と呼ばれているが、その内容は徳川に対して腹することなく正論を述べ、上杉の「義」を前面に打ち出しつつも、家康を「裏表のある人間」ではないかと疑問を投げかけるなど、はなはだ挑発的なものであった。上杉家に謀反の動きがあるなら、それを家康に告げた者と主君景勝とを引き合わせた上で、真偽を確かめるべき、という「筋目」、つまりは「義」を通さない

人間は不正直者ではないか等々。時の権力者家康に、まるで挑もうとするかのよきな書状であった。これをみた家康は当然激怒し、直ちに会津にあった上杉家の討伐を決定したと言われている。その後、展開は、よく知られるとおり、徳川が出兵すると石田三成が挙兵し、会津から急ぎよ引き返した徳川勢との間で歴史に残る関ヶ原の合戦が起こった。「直江状」の送達とその後展開は、視点を変えると、直江兼統と石田三成が組んだ策略とも考えられる。兼統が家康を挑発し会津領に誘い込み、三成は背後からその家康軍を襲う、という作戦であったのかもしれない。この推測の根拠は、「直江状」が、天下取りを目論む家康に対

する書状としてはあまりにも無礼きまわりのないものであり、まるで戦いを挑発しているかのとき内容だったからである。上杉家は家康から上洛を求められているにもかかわらず、その意に決して従わないことをはっきりと表明している。また「直江状」自体が後世の創作ではないかという説もあり、その真相は依然蔽の中である。しかし、権謀術数渦巻く戦国時代でありながら、上杉家・兼統の「義」の精神を如実に語っているのが、この「直江状」なのかもしれない。

米沢城跡を訪ねてみよう!

所在地: 米沢市内の1丁目
 ■ 東北自動車道の朝日館ICから車で約50分
 ■ JR山形新幹線・JR奥羽本線の米沢駅から徒歩で約25分

米沢城周辺さんぽコース ※所要時間は徒歩による目安です。



上杉謙信の墓(上)
謙信の遺骸は甲冑を着たまま、漆で固められて甕に密閉され、埋葬されたと言われている。上杉氏の移封にともない、跡継ぎ春日山から会津若松、さらに米沢に運ばれ、江戸時代は米沢城本丸に手厚く祀られていたが、明治9年にこの御廟所に移された

兼統、お船の墓(下)
春日山林泉寺(米沢市)には、兼統と妻・お船の墓石が併置し、並んで建てられている。向かって左が兼統、右がお船。お船は63歳の時兼統と死別、斬髪し「貞心尼」と号し出家して没した



直江石壁
松川(最上川)の上流、海老ヶ沢(えびがさわ)橋の上・下流に続く直江石壁。洪水を防ぐには是非ともここに堤防を築くべきと判断した兼統が、大規模な築堤を計画したと伝えられている

米沢での農業振興

関ヶ原の戦いの翌年となる慶長6年(1601)、天下人となった徳川家康は豊臣秀吉に仕えていた会津120万石上杉家を会津から米沢に移転させ、石高は三十万石にまで減らされることになった。ここから、直江兼統の苦難の財政再建が始まる。まず、約六〇〇〇名の家来の俸禄を1/3に減らしはしたが、誰一人として切り捨てることなく、家臣としての地位を確保。最下層の足軽にも住居兼農地として一五〇坪の土地を与え、そこに梅、柿など実のなる木を植えさせた。大幅に縮小した藩財政を農業によって立て直すべく模索した兼統は、紅花(ペニバナ)、桑(タワ)、漆(ウルシ)など、換金性の高い作物の栽培をおおいに奨励した。また、土地に合った作物の研究も行い、現在米沢の特産品として知られるナス、もやしなどの野菜は、兼統の時代に作られたといわれている。兼統のこうした農業振興策が実を結び生産高が伸びてきたのは、上杉家が米沢へ移封されてから7〜8年後のことであった。

こうして、家康によって上杉家がわずかに30万石に減封されてからも、兼統は農業振興に活路を見出し、その苦心が実り藩経営は軌道に乗り始めた。どのような局面に置かれても、家臣と領民の安泰を優先し、「義」を重んじて政治をつかさどり、経済発展を目指す兼統の姿に、現代にも通じる理想のリーダー役を見ることが出来る。



米沢市 禅林寺



春日山林泉寺の庭園

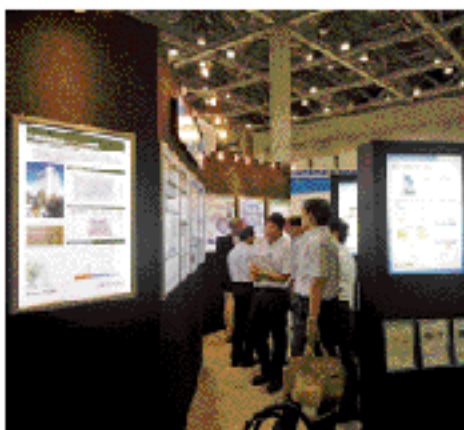


直江兼統の像(白鳥孝年撮影) (複製・800ミュージアム館)

春日山林泉寺(米沢市)は、明治5年(1872)越後高田の善ヶ堂の霊で開創し、上州白井(現 茨城県)の善林寺3世住持であった善英庵師(どんえい)の大師が高僧の一州正伊(いっしゅうしょうい)海印を招いて開山した寺で、越後高田から米沢に移転した。上杉家の墓所や直江兼統の墓がある。

展示会の話題

大型イベントで蓄熱システムのお客様導入事例を紹介



エネルギーソリューション&蓄熱フェア'09



ENE-WAY2009



東京ビッグサイト。面積230,000m²、展示ホールと会議施設を持つ総合コンベンションホール



会場となったポートメッセ名古屋の建物

TOKYO & NAGOYA

■エネルギーソリューション&蓄熱フェア'09(東京ビッグサイト)
■ENE-WAY2009 エネルギーで解決見本市(ポートメッセなごや)

エネルギーソリューション&蓄熱フェア'09(主催:東京電力等)は7月29日(水)~31(金)まで、東京ビッグサイトで開催され、3日間で約3万名が来場しました。

主要テーマは「ヒートポンプが拓く低炭素社会」で、当社は環境性・経済性に優れた蓄熱システムの導入事例を、自社ブースにて紹介しました。

また、8月26日(水)~28日(金)には、ENE-WAY2009エネルギーで解決見本市(主催:中部電力等)がポートメッセなごや(名古屋国際展示場)で開催されました。

而して展示会を通じて、当社はノンフロン型冷凍・冷蔵システムの紹介をしました。さらに、①スーパーマーケットの地球環境対策、②病院・介護福祉施設のライフサイクルコスト削減、③蓄熱システム導入事例、のコーナーを設け、それぞれ電飾パネルを展示しました。

東京と名古屋の展示会を通じて、当社の地球環境対策や省エネへの取り組みを、お客様への導入事例を通じて広く知っていただくことができました。

会場では、ウルトラ エコ・アイシステムなどの説明を丁寧にしたところ、好感触を得ることができました。

主催者展示ゾーンで当社システムを紹介

ENE-WAY2009では、主催者が設置した業務用展示ゾーン「Eタウン」で、UEEが紹介されました。このゾーンでは、オフィス、ホテル、食品スーパー、病院、福祉施設の4つの業種をピックアップし、省エネ・省コストに効果的な今話題の電化システムや成功事例を紹介しており、UEEは食品スーパーでの省エネ提案として展示されました。中部電力様様のスタッフの方々もUEEの説明をしてください、その後お客様が当社ブースを訪れるケースもあり、多面的なアプローチができたようです。

お客様への導入事例では、新規事例としてコープ殺井田町店様(静岡県殺井市)や、コンパクトシティ核「ガイアンプレイス」福住様(新潟県長岡市)を紹介した大型パネルを展示、蓄熱システムの導入メリットなどを説明しました。

訪ねてみたい名所・旧跡

家康が開いた尾張の城

名古屋城は、徳川御三家の筆頭である尾張徳川家の居城である。慶長五年(1600)年、関ヶ原の戦いで天下を制した家康は、東海道の要所として、また大坂方面への防衛として名古屋城を設置する。慶長十五年(1610)、加藤清正・福島正則・前田利常等北国・西国の諸大名20名が、家康に命じられ普請(土木工事)に着手。慶長十七年(1612)に天守閣や櫓(やぐら)が完成した。

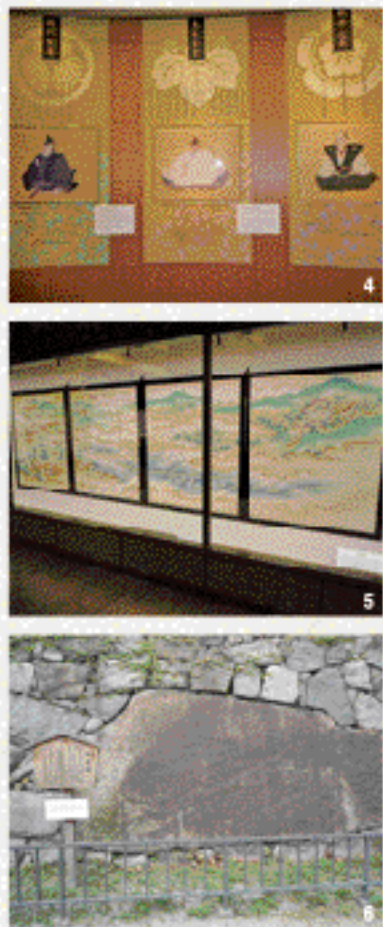
第二次世界大戦末期の昭和二十年(1945)五月、名古屋空襲の際、天守閣、本丸御殿などほとんどの建物が消失したが、昭和三十四年(1959)に天守閣が再建された。

尾張名古屋は城で保つ(もつ)金鯱輝く名古屋城(愛知県名古屋市)

尾張名古屋のシンボル、金鯱(きんのしやちほこ)

城の大屋根に鯱を掲げる風習は室町時代の後期から始まったといわれるが、当時は日除けのまじないであったらしい。その後、江戸時代になると、城主の権威の象徴として飾られるようになった。

金鯱は尾張名古屋のシンボルとして伝承されてきたが、第二次世界大戦の戦火で消失。昭和34年に天守閣とともに再建されたのである。金鯱の高さは約2.5m、重さ12キロで、金板は18K。うろこの枚数は雄126枚、雌112枚、金の量は約43kgである。



- 1 天守閣(天守閣の屋根には金鯱をいたさき、名古屋のシンボルとして親しまれる。)
- 2 天守閣内に展示されている金鯱。高さ約2.5m、重さ約12キロ。うろこの枚数は雄126枚、雌112枚、金の量は約43kgである。
- 3 西園寺公経(西園寺公経)の墓。重要文化財。明治24年の西園寺公経と共に見学したが、修繕されたのも戦災での消失を免れ、現在その姿をのぞく。
- 4 天守閣(天守閣の屋根には金鯱をいたさき、名古屋のシンボルとして親しまれる。)
- 5 天守閣内に展示されている金鯱。高さ約2.5m、重さ約12キロ。うろこの枚数は雄126枚、雌112枚、金の量は約43kgである。
- 6 天守閣の石垣の構造を命じられた加藤清正は、巨石の連綿に際し、自ら登壇をこめて進んだといわれる。

西那須野・西大和地区再開発事業 快適、元気、便利がある多機能型集客施設の誕生

当社栃木支店は、那須塩原市西大和地区第一種市街地再開発事業の中核として建設された商業施設「そすいスクエア アクアス」(施工者・西大和地区市街地再開発組合)の空調衛生・プール設備工事を施工しました。

そすいスクエア
AQUAS



7月にスポーツクラブの「フラインドスポーツクラブ」をはじめ玩具店、歯科医院などがオープン、9月17日(木)にスーパーマーケットなどの営業が開始され、グランドオープンとなりました。

フラインドスポーツクラブには、本格的な50メートルプールが設置され、全自動のレジオネラ対策システム「ヤマトスーパークロリネーションシステム」が導入されています。また、省エネ設備として、割安な深夜電力を利用した夜間給湯蓄熱「ハイブリッド給湯システム」や、床暖房設備が不要な「プールの空気流通システム」が稼働しており、省エネが図られています。

施工面では、当社加工センターで行う配管のプレハブ加工が約70%に達し、合理化が図られました。



50メートルプール



受付



浴場



スタジオ

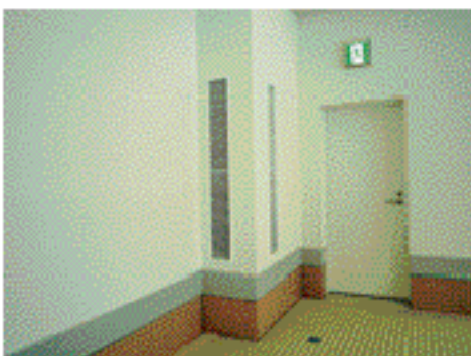
● 特徴的な設備システムのご紹介 ●



ハイブリッド給湯システム



ヤマトスーパークロリネーションシステム
[群馬県建設工事関連新技術認定システム]



プールの空気流通システム吹き出し口
[特許申請中 群馬県建設工事関連新技術認定システム]



ウランによるプール水流試験
[薬部次出+90%オーバーフロー]のローリターン数システム

講演・インフルエンザの最新情報



講演の木村博一氏



講演の様子

講演プロフィール
木村 博一 氏

・国立感染症研究所
感染症情報センター第六室長
・田代真人氏とともに感染症学に携え、国の新型
インフルエンザ対策をこなされている。

<略歴>

群馬大学大学院工学研究科 博士後期課程修了
群馬県衛生環境研究所・調査研究グループ
リーダーを経て、2006年より国立感染症研究
所感染症情報センター第六室長(国立保健医療科学
研究企画部併任)及び群馬大学医学部講師兼任
専門領域: ウイルス系・生体防衛学
業 績: 英文論文 約120編

■ 当社との関係

レジオネラ問題に対する群馬県衛生環境研究所との
共同研究において、当初よりご指導いただき、
幅広い細菌学的知見に基づきご指導により、
当社技術の進展に多大なるお力添えをいただいでいる。

株式会社ヤマト、ヤマト緑会安
全衛生部会共催の平成21年度安全
衛生大会(平成21年9月11日(金)
開催)の席上、国立感染症研究所
感染症情報センター第六室長の木
村博一氏による講演会「インフル
エンザの最新情報」が行われまし
た。

講演では、今後の新型インフル
エンザの流行予測や、予防法など
有意味な情報を披露していただき
ました。